

住宅の火災を予防しよう

3月1日～7日は春季全国火災予防運動が実施されます。
冬から春にかけて、降水量が少なく空気が乾燥することから、火気の取り扱いには特に注意が必要です。
いま一度身の回りで火災が起こる原因をつくらぬよう、自宅を点検して大切な命を守りましょう。

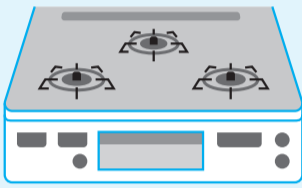
☎333-2116 予防課

原因ごとの予防方法を確認しましょう

こんろ、電気器具、たばこが原因の火災が多くなっています。

こんろ

- 調理中に火のそばを離れる時は火を消す
- こんろの周りに可燃物を置かない
- 安全装置の付いたこんろを使う



- ・立ち消え安全装置
- ・調理油加熱防止装置
- ・消し忘れ消火機能があります

- 袖口などの着衣着火に注意する



▲エプロンやアームカバーは、防災製品を着用しましょう

電気器具

- コンセントにほこりがたまらないように、掃除をする
- 電気コードが家具などの下敷きになり断線しないようにする



- 電力が許容量を超えないようにする
- コードを束ねたまま使用しない
- リチウムイオン電池(モバイルバッテリーなど)を熱くなる場所に置かない。破損・膨張など異常がある場合は使用しない。充電する際は、メーカーが指定する機器を使用する

たばこ

- 灰皿を用意し、決まった場所で吸う



- 吸い殻は水につけるなど、確実に消す

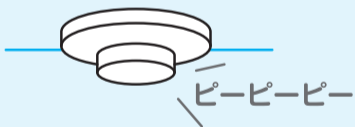


- 吸い殻はこまめに捨てる
- 寝たばこをしない

住宅用火災警報器の設置・点検

住宅用火災警報器

警報音や音声で火災を知らせ、逃げ遅れを防ぎます。本市では、寝室、階段、台所などへの設置が条例で定められています。台所は熱式、それ以外の場所は煙式の警報器を設置してください。



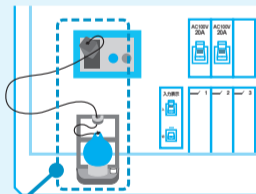
点検・確認をする

- 警報器の点検ボタンを押す、ひもを引いて音を確認する
正常な場合＝「ピーピーピー、正常です」など
電池切れや故障の場合＝「ピッピッピ」など
- 設置年月日を確認し、設置年数10年を目安に交換しましょう

感震ブレーカーの設置

感震ブレーカー

東日本大震災の本震による火災は、過半数が電気関係の出火が原因でした。感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知した際、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。さまざまな種類がありますので、製品ごとの特徴・注意点を踏まえ、適切に選びましょう。詳しくは右記2次元コードで確認してください。



▲設置例 簡易タイプ(おもり玉式):おもり玉の落下によりブレーカーを切って電気を遮断します



火災が起きてしまったら

初期消火



- 出火直後に素早く消火
避難経路を確保した後に、落ち着いて行う

119番通報



- 119番通報をする
- 大声で「火事だー」と叫んで周囲に知らせる
- 声が出ない場合は、音を鳴らして異変を周囲に知らせる

避難



- 炎が背の高さを超えたら、初期消火を中断する
- 煙を吸い込まないように避難する

火災を防ぐために日頃から気を付けましょう。万が一、火災が発生した時には状況に応じて行動しましょう。